

授業の玉手箱

「ホンモノの語り部」が見せる「ホンモノ」
夫 明美

2017年度秋学期担当授業に、ハワイ島ヒロ市にある Hawaii Japanese Center 館長 Arnold Hiura 氏をお迎えし、「Food, culture, history」と題した特別講義を行っていただいた。筆者が外国から講師をお招きして講義をお願いするのが初めての機会であったので、事前の準備や当日のスケジュール調整など、(冷や汗をかきながら) 学ぶことが多くあった。Hiura 氏はハワイ島生まれの日系3世で、新聞編集者、博物館学芸員、教師としての勤務歴など、非常に多様なフィールドを経られた方である。ちなみに、前アメリカ大統領の Barak Obama 氏も元教え子のお一人である。

本稿特別講義の内容は、英語教育の重要目標の一つである「言語文化理解」に深くかかわるので、以下に簡潔に紹介したいと思う。明治元年に「ガンネンモノ」がハワイの砂糖きびプランテーションへ労働者として海を渡ってから、多くの労働者が「故郷に錦を飾る」ことを夢見て、あとに続いた。しかし、彼らを待っていたのは過酷な労働条件と「バンゴー」(労働者が管理される番号札) に象徴される非人間的扱いや差別であった。毎日酷暑のもとで働く彼らの数少ない楽しみは、お昼ごはんであり、それぞれが限られた持ち合わせから「ベントーバコ」にご飯とおかずを詰めてキジ畑へと向かった。異なる民族背景をもつ労働者らが、ごはんを食べながら語り、それにとまなう「オカズの交換」を通じて、親交や友情を深めたい。共通言語を持たない人々の間で交わされる言葉が、やがて Hawaii Pidgin English へと発達し、(日系人労働者の場合)「塩辛などの地元色が強いオカズは控える」と

いった暗黙のルールも生まれたという。実際、「」つきのカタカナ表記した語彙は、地元で語彙として機能する日本語基盤の Hawaii Pidgin English である。

高校までの歴史教育ではスポットライトを浴びることが少ない「日系移民」の歴史について、「食べ物」を中心に講義いただいた。わずか1コマ分の講義ではあるが、受講生が歴史について新たな知識を得て、歴史と文化が密接な関係を持っていることについても認識を深めたように思う。実際、講義の内容をよく理解した質問やコメントも、学生から多く出ていた。

筆者が一番感銘を受けたのは、Hiura 氏のおばあさまが実際に使っておられた年季の入った「ベントーバコ」をヒロからお持ちくださり、参加者全員が手に取って間近に見る機会を下さったことである。これからますます国際化や多様化が進む社会に生きる若い学生に、ホンモノをわざわざお持ち下さったお気持ちが大きく響いた。博物館や資料館のガラス越しに見るのは全く異なる経験であるし、原体験を直に知る方のお話も非常に貴重である。

そして、30年以上前に小学校の修学旅行で広島平和公園を訪れて被爆者の方のお話を聞いたことを思い出した。時代が変わるにつれ、被爆者の方からの「語り部体験」も、元プランテーション労働者からの「聞き取りも」非常に困難、または、ほとんど不可能になっている昨今である。だからこそ、原体験を有する方から「実際に現場で使用されていたもの」を個人的な思い出と共に拝聴できたことは非常に貴重であったし、バトンを渡されたものとして、授業内外を通して今後の経験を伝えていく責任感を新たにしたい。

Hiura 氏の講義内容に近いビデオ材料を記します。ご関心を持たれた方は、ぜひご覧ください。

Kurusu, S. (2011, June 23). Biting commentary episode 1: Kau Kau with Arnold Hiura. In Pacific Basin Communications. *Biting commentary*. Honolulu, Hawai'i: KGMB.

書籍紹介

『今日すべきことを精一杯!』

日野原 重明 (著) 170 ページ
ポプラ社 (2017/3/9) ¥864



時々出かける喫茶店の勘定書の裏に「人生には三つのものがあるといい、希望と勇気とサムマナー」と書かれています。ご存じの喜劇王チャップリンの代表作「Limelight」の中の名台詞 “Yes, life is wonderful, if you're not afraid of it. All it needs is courage, imagination, and a little dough.” の日本語訳の一つです。

今回は、much money でなくサムマナーでも教えられることの多い本をご紹介します。表題から、人生訓を垂れる書物はもう沢山と思われるでしょうか? ご安心ください。読み進めれば、著者自身の生き方そのものが「今日すべきことを精一杯」の言葉に凝縮されていることがお分かりになると思います。

著者は、敬虔なクリスチャンにして、終末医療の普及や「成人病」に代わる「生活習慣病」という言葉の提言など、医学・看護教育の刷新に尽力したことで知られています。本書のあとがきには「今から30年近くも前に出版された私の著書が、みなさんのお目に触れることになりました。・・医療現場でのその当時の思いを、渾身の力を込めて訴えかけたものです。2017年早

春」とあります。その数ヵ月後に105歳で亡くなられたことを思うと時空を超えての last message と言えば過言でしょうか。

以下は本文からの抜粋です。大学を所属されている校種に、患者を生徒、保護者に、医師を教員に置き換えて読んでいただければ幸いです。

〇・・・なぜ講義の途中にでも質問しないのか。大学というところは知識の結果でなく、学ぶ方法を学ぶところなんだと、いつも学生たちに話してきました。

〇人間はより愛情を抱いている相手に対しては高いピッチの声を出すものです。・・・私は、友人にも患者さんにも心配させないために、初めの「はい」を高い声で返事できるように努力してきました。

〇医師の中には、なにか自分が上位の者になったかのように言葉が丁寧でなくなる人がいる。患者をして卑屈にさせるような医師の行動はよくない。そのことは医師が一番警戒しなくてはならないことです。

〇ヒポクラテスが「判断は難しい、経験は誤りやすい」と言っています。つまり「前にこういう症例にぶつかったが、今度もそうだろう」と思うと、そうはいかないということが多いためです。みんな違うのだと思います。前にはこうだったから、今度もこうだと思つくと、大抵失敗します。

(中垣芳隆)

教員養成センターの教育活動

- 2017年7月1日 第1回教職勉強会
- 2017年8月6日 教員免許状更新講習1
- 2017年8月7日 教員免許状更新講習2
- 2017年8月7～9日 集中講義「教育と人間」
- 2017年8月20日
～8月29日 教職フィールドワーク(韓国)実施
- 2017年12月2日 第2回教職勉強会
- 2017年12月6日 教職専修 Graduation Project
ポスターセッション

編集後記

昨年に引き続き、今年も教員採用試験現役合格者ができました。前センター長の下でのしっかりした教育活動の結実です。教員養成センターというプラットフォームで、一層充実した“協働”に取り組もうと気持ちを引き締めています。(東條加寿子)

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher-Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号
Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/oj/?ttc> 教員養成センターについて
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp